



令和6年10月15日  
第886号

一般財団法人日本遺族会  
〒100-0001 東京都千代田区千代田五丁目六番五号  
九段南一丁目六番五号  
九段会館 電話 03-221-5521  
電話 03-00160-6-25389  
編集 盛川英治  
発行 1回15日発行  
毎月1部130円(税込)  
定価

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰霊救済の道を開くと共に、世界の恒久平和の確立に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

語り部活動者を育成することが求められる。現在全国各地で巧みな講話者が活躍しているが、人数に限られること、遺児が中心であることが課題である。そこで、記憶の断片を語り部活動者の育成に注力する。ここで、講話者と活動者の違いを説明したい。講話者 授業一コマ(約50分)を一人で完結させられる人。活動者 自身の記憶の断片を5分〜10分で伝えられる人。その上で、誰もが語り部活動に参画できるモデルケースを以下の通り提示する。

史上最多の9人が立候補した自民党総裁選挙は、石破茂衆院議員が当選し、第28代自民党総裁に就任。そして10月1日、第102代内閣総理大臣に就任した。石破首相は5回目の挑戦で首相の座をつかみ取った。先日記事を読んでいたら面白い記事があったので紹介したい。内容は、世界最古の木造建築、五重塔をほぐす宮大工の棟梁の手掛ける「生かす」の棟梁の話である。『生前、こんなことを言っていた。』木には癒しがあります。いわく、何時も同じ方向から風が吹く所に生えている木は、その風に対抗するように、働く力が生じている。その癖をみてうまく組む。当然ながら棟梁にはその癖を見抜く力が要だ。眼力がなければやがて部材は勝手にあちこちを向き始め、建物は倒れてしまふ。』とあった。今年靖国神社秋の例大祭期間中は衆議院選挙真っただ中だが、国の代表である内閣総理大臣はじめ各関係には、日本の礎となられた方々が祀られる靖国神社には是非、就任の報告参拝をしていただきたい。石破首相は就任会見で「この内閣は『納得と共感内閣』だ。何よりも第一に国民に納得し、共感してもらう政治をまっすく進めたい」と述べている。国家存立の大前提は平和だ。二度と戦争の惨禍をくり返さないために常に英霊に思いを馳せ、指導者であってほしい。

# 平和の語り部 終戦80年 令和7年度事業の展開 常務理事会で審議、承認

来年度予算の概算要求に本年度予算の倍額が計上された平和の語り部事業の更なる普及、拡大を目指し、本会は終戦80年を記念する事業計画案を常務理事会で提案し承認された。恒久平和を希求する団体として真価が問われる節目の年に、年間を通して、切れ目なく事業を展開し、行政と報道への広報を駆使し本部支部一体となって努力する。

令和7年度政府予算の概算要求が公表され、本会の要望は概ね計上された。中でも最重要3項目の一つである平和の語り部事業(以後、語り部事業)の予算に、倍増の5500万円が計上されたことは、恒久平和を希求する遺族会の活動が認められた証左とお伝えしたのは戦報の通りである。戦没者を忘れず、戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代へ伝承する語り部事業は、遺族会活動の根幹であり、今後の遺族会活動の主軸となる見通しである。終戦から80年の節目を好機と捉え、令和7年度に同事業を更に普及、拡大させるべく、遺族会活動の意義を高めるため、広報筆より以下の事業計画が提案された。(事業計画は別表の通り)

国民全体の1割となつた戦争体験者の貴重な記憶をあらゆる形態を用いて残すため、より多くの体験者の記憶を記録する必要がある。まずは、体験者である多くの遺族が自身の記憶に向き合い、一端を伝える活動者となる取組みを実施する。あわせて全国各地の学校等で、生徒に向けた講話型、共に考える対話型、共に体験する体験型を実施する。

その取り組みの中で、青年部が戦争体験者の記憶を伝承し、次の世代へ伝承することを旨とする。事業計画一覧は別表参照。同事業の効果的な広報戦略として提案されたのは、遺族会の語り部のPRポイント(体験者の個人の記憶を地域の歴史とともに伝承)に立ち返

り、遺族会にしか出来ない事業展開を目指す。一、体験者(親戚)・次世代(青年部)が共に活動すること。体験者の貴重な記憶を青年部と共に次世代へ伝承すること。二、青年部組織を持つ遺族会にしか出来ないこと(質)一、全国各地の戦争の記憶、歴史を伝承しその地域に特化した歴史を伝えることができる。三、市区町村に組織を持つ遺族会にしか出来ないこと(量)こうしたポイントを踏まえ、終戦80年に向けた準備として提案されたのは、広報・育成戦略である。

これまで、語り部事業が順調に拡大している地域の共通項は、行政と報道双方へ広報していることだと判明した。そこで終戦80年の節目にあ

り、行政・報道共、戦争と平和について考える時機であることを踏まえ、遺族会として同事業の計画を想定し、より多く

## 終戦80年記念(令和7年度) 平和の語り部事業 事業計画

終戦80年の機会を捉え同事業の更なる普及、拡大を図るとともに、恒久平和を希求する遺族会の活動を広げ、意義を高める好機とすべく、終戦80年直前の令和6年12月から令和7年にかけて、切れ目なく事業を展開する。

- (終戦80年直前：広報スタート)
- (本部企画) 日本遺族会女性部結成70周年記念事業 平和の語り部研修会  
タイトル 「みんなで語り部活動に参加しよう!!～自分史を作る座談会～」  
内容 戦争体験者の女性遺族一人一人が、語り部活動者となるため、自身の記憶と向き合う座談会。あわせて遺児・青年部それぞれの活動を研修する。  
日程 令和6年12月11日(水)～12月12日(木)  
場所 九段会館テラス(予定)
- 終戦80周年記念 本部実施企画  
タイトル 「日本遺族会戦跡巡拝～国内の戦跡を訪ね、記憶の伝承を考えよう!!～」  
内容 本会主催の戦跡巡拝を平和の語り部研修会とし、国内の戦跡を訪ね、記憶の伝承を考える。  
期 令和7年2月  
地 国内(兵庫県野飛行場、舞鶴)
  - 終戦80周年記念 全国実施企画  
タイトル 「全国各地で戦争と平和について考えよう!!～戦争体験者に当時の話を聞いてみよう～」  
内容 小・中・高等学校で実施されている総合学習の時間の利用に向けて、全国で下記取組を実施する。  
期 令和7年5月～8月  
具 体 策 ア. 語り部講話(講話型) イ. 遺族の記憶を聞き取り(対話型) ウ. 慰霊碑清掃(体験型)
  - 終戦80周年記念 本部実施企画  
内容 慰霊友好親善事業 洋上慰霊  
海に鎮まる30万余の御霊に慰霊を捧げ、旧戦域の方々の友好親善を図るとともに、戦争の記憶を伝承する「平和の語り部事業」の推進に向けた研修を実施する。  
期 令和7年6月  
具 体 策 ア. 語り部講話研修(講話型) イ. 座談会(対話型) ウ. 関連映像の視聴等
  - 終戦80周年記念 本部企画  
内容 語り部大会(ブロック会議)  
全国5ブロックで各地域の語り部(講話型・対話型・体験型)を披露する大会を実施し、同事業の広報と活動者の研修を図る。  
期 令和7年9月～11月

令和7年度事業の展開 常務理事会で審議、承認

### 英霊の御心を 次の世代に伝えましょう

●振込先  
維持会費は、左記宛に送金願います。  
郵便局 郵便振替  
口座 〇〇一六〇一―七〇四三―  
番号  
口座名 英霊にこたえる会  
靖国カレンダ―業務室

靖国神社初詣 (1-2月)

令和7年終戦80年記念版 靖国カレンダ―を 家庭にかかげましょう

申し込み方法  
維持会費 〇七〇〇円(送料別途)

①英霊にこたえる会  
靖国カレンダ―業務室  
〒100-0001 東京都千代田区千代田五丁目六番五号  
電話 03-00160-6-25389  
FAX 03-00160-6-25389  
E-mail: eire@dokus.or.jp  
HP: https://www.eireinfo.or.jp

②別途申込書で、お住まいの「英霊にこたえる会」都道府県本部宛  
部数は、一部(一口)から取り扱っております。送料は一部(一口) 2部350円、三部以上は前記「都道府県本部」または「靖国カレンダ―業務室」にお問い合わせ下さい。

# ブロック会議始まる 「平和の語り部」次年度展開を研修

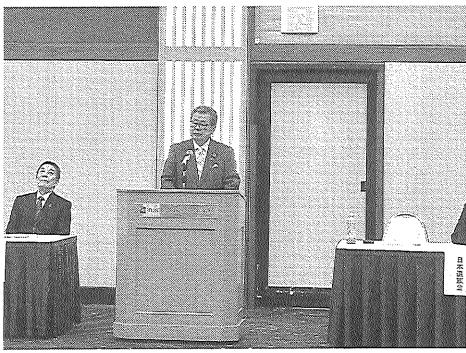
全国5つの地域で活動を話し合うブロック会議は9月18日から始まった。今年度は、今後の主事業となる平和の語り部事業をメインテーマとし、終戦80年にむけた事業展開について研修した。各ブロックから多様な取り組みが報告され、事業の普及・拡大に向け一丸となって努力することが確認された。主な審議内容を紹介する。

## ○第2ブロック会議

東京都千代田区で9月18日、開催。靖国神社に参拝後、ホテルにて研修会、開会式には、自民党国会議員が駆け付け、都福祉局生活福祉部長が出席。都立の戦没者墓苑、平和祈念館の改築に触れ、戦争の記憶を伝承する遺族会活動を評価した。

その後、古賀誠名誉顧問の講話「我が国の永遠の平和のために、遺族会が果たすべき使命」を拝聴した。その後、各支部より語り部事業の進捗が報告され、本部より終戦

80年に向けた具体的展開を説明(内容上面別掲)。行政と報道へのPRによる好循環の例として静岡県が紹介された。主な意見は以下の通り。  
・語り部事業推進委員会や親会、青年部により行政への要望、教育機関へのアプローチを実施。  
・講話内容の研修として、ブロックアドバイザーや他支部で活躍中の語り部の講話を拝聴する、関連施設の視察等を実施。  
・県への要望から県庁HPに事業が紹介し、出前事業と連携し、依頼に繋がった。



第2ブロック会議で挨拶する水落敏栄本会会長  
= 9月18日、千代田区で



「遺族会が果たすべき使命」について講演する古賀誠本会名誉顧問  
= 9月18日、千代田区で

## 国内慰霊碑に調査費計上 集約統合に向けて期待

令和7年度政府予算の概算要求が8月30日に公表され、海外・国内民間建立慰霊碑の調査・設置の予算が本年度予算1000万円に対し、4100万円と大幅に増額計上された。この増額分には、国内民間慰霊碑調査事業1700万円が新規予算として含まれている。さらに、移設等の自治体補助も倍額の1800万円

は参拝者もなく、慰霊碑が放置されると危惧されている。慰霊碑を維持管理している遺族会の意向に沿った形で未来永劫慰霊追悼できるように、整理統合するための実態調査を実施し、その調査が完了後に委託されるよう令和7年度政府予算に対し要望していた。

各都県の戦後80年事業への連携を模索。  
・遺族のみならず広く国として、追悼式を活用。

## ○第1ブロック会議

9月20日、岩手県花巻市で開催。開会式には、県保健福祉部地域総括課長、花巻市長が駆け付け、当日東北新幹線の連結が外れるトラブルによる遅延が報告された。主な意見は以下の通り。  
・語り部事業を普及させるためには、教育委員会等行政への周知が重要。中でも、学校へ赴き、講話者の略歴、講話内容を分かりやすく説明し、理



平和の語り部事業について話し合う各支部出席者  
= 9月21日、花巻市で

## カザフスタンで29柱収容 戦没者遺骨収集事業

日本戦没者遺骨収集推進協会主催の旧ソ連抑留中死(カザフスタン)共同回収所第5支部ズ「第45回収所第5支部ズ」イリヤノフス市で遺骨の収容に着手した。平成3年に旧ソ連側から情報開示されたこの埋葬地の抑留中死(カザフスタン)の日本兵の氏名が記された。抑留中死(カザフスタン)の日本兵の氏名が記された。抑留中死(カザフスタン)の日本兵の氏名が記された。

は参拝者もなく、慰霊碑が放置されると危惧されている。慰霊碑を維持管理している遺族会の意向に沿った形で未来永劫慰霊追悼できるように、整理統合するための実態調査を実施し、その調査が完了後に委託されるよう令和7年度政府予算に対し要望していた。

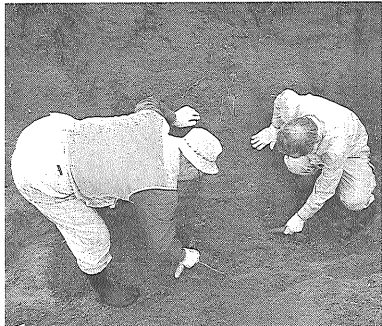
## フリーピンで調査

民間建立慰霊碑移設等事業  
日本遺族会が厚生労働省から委託を受け実施している海外民間建立慰霊碑移設等事業で、8月18日から27日の期間で事務局職員2人をフリーピン



フリーピンで調査されることなく放置状態の慰霊碑  
= 8月26日、ルソン島バグサンハン比島寺跡で

の埋葬跡地の略図と名簿に書かれている墓番号を基に、1柱、1柱を慎重に掘り起こし、9日間かけて20柱すべてを収容した。収容した遺骨は1柱に2時間かけて丁寧に洗骨し、検体を採取した。すべての作業を終えた後、9月10日、収容した遺骨を在カザフスタン日本国大使館に仮安置し、採取した検体を検体は厚生労働省へ引き渡され、所属集団(人種)を判定するDNA分析が行われる。名簿には抑留中死(カザフスタン)の氏名と墓番号の他、生年月日、階級、死亡日等、身元を特定できる情報が記載されており、DNA鑑定によって最終的に遺族が判明する可能性は高い。



抑留中死(カザフスタン)の名簿の墓番号を基に掘削する団員  
= 8月30日、アルタイ市で

朽果てた仏像1基を地権者の同意を得て埋設した。また、レイテ島タガミの老朽化で倒壊した木製の慰霊碑やルソン島バグサンハン(旧比島寺)に放置状態となっている慰霊碑群等5基の維持管理状況を「不良」と判定した。慰霊碑は、今後富轄する行政機関、地権者等と協議し、移設又は埋設を検討する。この他、レイテ島で2基の慰霊碑の所在が特定できなかったため「不明」と整理区分した。「不良」又は「不明」と判定した以外の慰霊碑は、清掃も行き届いており、維持管理状況が「不良」と判定された慰霊碑の移設又は埋設に取り組んでいく。

争の惨状を伝えるDVDを制作し、同事業に活用する。  
・沖繩県への慰霊巡拝募集に苦戦。戦争の記憶を語り部事業は遺族会活動の根幹として、鋭意努力し、推進することが確認された。  
(第3ブロック以降は、次号で掲載)

友好親善 慰霊事業

# 遺児巡拝始まる 南方各地で父の冥福祈る

令和6年度の戦没者遺児による慰霊友好親善事業が8月から開始され、ボルネオ・マレー半島、トラック・パラオ諸島、西部ニューギニアの3地域を相次いで実施した。全国から戦没者遺児、青年部等の付添者を含め、総勢28人が参加し、参加者は亡き父等の慰霊追悼を行うとともに各地で小学校等を各地で訪問し、現地関係者と友好親善を図った。

ボルネオ・マレー半島 島した。

29日、最初の慰霊の地

マレー半島に渡り、ス

ンガポールに渡り、個人

慰霊祭を行い、亡き父の

冥福を祈り、30日にはシ

ンガポールで海を望み、

シンガポール沖で戦没し

た亡き父を偲んだ。

そして、31日、ボルネ

オ島インドネシア領のパ

リクパンにある南方方

面戦没者慰霊碑で訪問団

最後の慰霊祭を行い、積年

の思いを涙ながらに語り

かけた。

9月3日、ラファン島

の「ボルネオ戦没者の碑」

前において在コタキナバ

ル日本国領事事務所所

の「ボルネオ戦没者の碑」

前において在コタキナバ

ル日本国領事事務所所

の「ボルネオ戦没者の碑」

前において在コタキナバ

ル日本国領事事務所所

の「ボルネオ戦没者の碑」

前において在コタキナバ

ル日本国領事事務所所

の「ボルネオ戦没者の碑」

前において在コタキナバ

ル日本国領事事務所所

の「ボルネオ戦没者の碑」

前において在コタキナバ

ル日本国領事事務所所

の「ボルネオ戦没者の碑」

前において在コタキナバ

ル日本国領事事務所所

の「ボルネオ戦没者の碑」

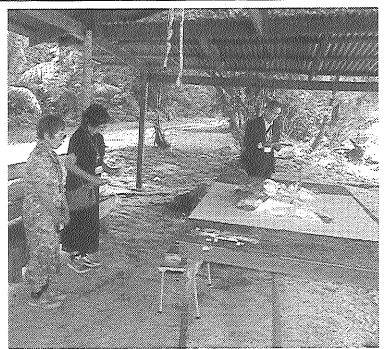
前において在コタキナバ

ル日本国領事事務所所

の「ボルネオ戦没者の碑」



スンゲイパタニの河畔で亡き父に積年の思いを語る遺児  
=8月29日、マレー半島で



目の不自由な母に付添い追悼文を代読する孫  
=9月10日、ペリユー島スカーレットビーチで

## 友好親善 慰霊事業 遺児の参加者募集 事業終了迫る

日本遺族会が厚生労働省から補助を受けて実施している「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、令和6年度の参加者を募集している。

本事業は令和7年度に終了することとし、終戦80年及び事業実施30周年を記念し国に要望している。洋上慰霊の実施が実現した場合は、令和7年度は洋上慰霊とフィリピン

として、ペナン島の小学校に、団員が持ち寄った衣類、学用品を贈り、ボルネオ島では、医療機関に車椅子を寄贈し交流を図った。

江田聖本会常務理事(埼玉県遺族連合会会長)を団長とするトラック・パラオ諸島慰霊友好親善訪問団(団員10人、付添者3人含む)は、9月7日トラック諸島ニュークに到着し、翌8日は船舶をチャーターし北水道海域の洋上で、9日は春島で慰霊祭を行い、亡き父上等の冥福を祈った。

9日午後、グアム空港を経由してパラオ諸島コロール島に深夜到着した訪問団は、10日、パラオ日本大使館を表敬訪問し、折笠弘雄特命全權大使と小野俊輔参事官に団員全員で面談。その後、チャーター船でペリユー島に渡り、日本海

軍司令部、スカーレットビーチで慰霊祭を行った。11日には予定していたペリユー島の「西太平洋戦没者追悼の碑」前での全知県遺族会会長(高野大石)を団長とする西部ニューギニア慰霊友好親善訪問団(団員14人)は、9月21日から、ハルマヘラ島カウ湾、テルナテ島南海岸、セルベスト島マカサル市内、マンクワリの第125兵站病院跡、アンパンビーチ、チャーター機で

ビアク島へ移動後、西洞窟、南海岸で、それぞれ慰霊祭を行い、亡き父に積年の思いを語りかけ、冥福を祈った。

今回付添で参加した青年部、戦没者の孫は、母親が追悼文を読み上げた後に、訪問前に親族が集った時の写真を見せながら、「お陰様で皆、元気に暮らしています」と報告した。

また、テルナテ島の小学校を訪問し学用品等を寄贈するなど、現地の方々と友好を深めた。25日午後には、ビアク島の「第二次世界大戦慰霊碑」前において、全戦没者追悼式を挙行し、ご英霊に感謝と追悼の誠を捧げ、27日、無事に帰国した。

長、ラファン評議会代表(霊に感謝と追悼の誠を捧げる)のもと、全戦没者追悼式を厳粛に挙行し、英霊に感謝と追悼の誠を捧げた。また、友好親善の一環として、ペナン島の小学校に、団員が持ち寄った衣類、学用品を贈り、ボルネオ島では、医療機関に車椅子を寄贈し交流を図った。

江田聖本会常務理事(埼玉県遺族連合会会長)を団長とするトラック・パラオ諸島慰霊友好親善訪問団(団員10人、付添者3人含む)は、9月7日トラック諸島ニュークに到着し、翌8日は船舶をチャーターし北水道海域の洋上で、9日は春島で慰霊祭を行い、亡き父上等の冥福を祈った。

9日午後、グアム空港を経由してパラオ諸島コロール島に深夜到着した訪問団は、10日、パラオ日本大使館を表敬訪問し、折笠弘雄特命全權大使と小野俊輔参事官に団員全員で面談。その後、チャーター船でペリユー島に渡り、日本海

軍司令部、スカーレットビーチで慰霊祭を行った。11日には予定していたペリユー島の「西太平洋戦没者追悼の碑」前での全知県遺族会会長(高野大石)を団長とする西部ニューギニア慰霊友好親善訪問団(団員14人)は、9月21日から、ハルマヘラ島カウ湾、テルナテ島南海岸、セルベスト島マカサル市内、マンクワリの第125兵站病院跡、アンパンビーチ、チャーター機で

ビアク島へ移動後、西洞窟、南海岸で、それぞれ慰霊祭を行い、亡き父に積年の思いを語りかけ、冥福を祈った。

今回付添で参加した青年部、戦没者の孫は、母親が追悼文を読み上げた後に、訪問前に親族が集った時の写真を見せながら、「お陰様で皆、元気に暮らしています」と報告した。

また、テルナテ島の小学校を訪問し学用品等を寄贈するなど、現地の方々と友好を深めた。25日午後には、ビアク島の「第二次世界大戦慰霊碑」前において、全戦没者追悼式を挙行し、ご英霊に感謝と追悼の誠を捧げ、27日、無事に帰国した。

## 慰霊友好親善事業 実施計画表

実施地域	実施時期	募集人員	申込締切
1 台湾・パシフィック海峽	令和7年1月17日~1月23日	40人	11月15日
2 西部ニューギニア(特定地域)	令和7年2月3日~2月12日	36人	12月3日
3 東部ニューギニア(特定地域)	令和7年2月14日~2月21日	36人	12月13日
4 タイ(特定地域)	令和7年2月20日~2月27日	36人	12月20日
5 ギルバート諸島	令和7年2月28日~3月8日	20人	12月25日
6 マーシャル諸島	令和7年3月1日~3月9日	20人	11月1日
7 フィリピン(2次)	令和7年3月11日~3月18日	120人	1月10日
8 中国	令和7年3月21日~3月29日	80人	1月20日

⑧申込締切日が実施時期の4カ月前なのでご注意ください。

は、相手国や交通機関等は、事情で変更、延期、中止となる場合がある。参加者の高齢化に考慮し、概要を参照。

実施地域や実施時期等は、概要を参照。

募集要項は次の通り。令和7年6月1日(日)~11日(水) 10泊11日(付添者含む) 募集人員 約300人(付添者含む) 参加費及び協力金 10万円。但し、過去の洋上

### 地方だより

◆富山県 8月2日  
令和6年度富山県総合戦没者一万人八千余柱の慰霊祭(266人)

◆滋賀県 8月15日  
令和6年度県下戦没者慰霊祭(100人)

◆鹿児島県 8月18日  
第2回鹿児島県遺族連合会戦没者遺族の集い(16人)

### 日本遺族会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた記の方々に、心よりお礼申し上げます。賛助者名(敬称略)

須原牧夫(以上、9月1日から9月末日まで) 本会が実施しているさまざまな遺族会活動に利用させていただきます。

1月末日

## 令和7年度 海上に鎮まる御霊を追悼 洋上慰霊参加者募集

本会が厚生労働省から補助を受け実施している「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、終戦80年及び事業実施35周年を迎える令和7年度に計画している洋上慰霊の参加者を募集している。

募集要項は次の通り。令和7年6月1日(日)~11日(水) 10泊11日(付添者含む) 募集人員 約300人(付添者含む) 参加費及び協力金 10万円。但し、過去の洋上

参加者の資格審査には、申込書の記載内容を確認するため、事前に申込書を取り寄せ、記入項目に不明な点(戦没者の部隊等)は各遺族会に相談し、記入した上で提出願いたい。



平和の語り部

佐賀県の取り組み

行政、報道機関も注目

佐賀県遺族会はこれまで市町の中で独自に活動していた語り部を県全体の事業として推進するため、研修と実演を重ねている。長年に亘る行政への協力と事業拡大への精力的な活動が報道機関に注目され、継続取材が続けられている。9月の定例県議会で遺族の高齢化に考慮する追悼を求めた自民党議員の質問に対し、知事は10年前例し追悼式を開催、遺族会とともに検討すると答弁した。

各支部の語り部事業の取組を紹介したい。佐賀県は、現在22人と1団体が語り部事業に参画している。本年度国の補助事業に採択されたことを受け、県内全域での活動を目指し、年度当初より研修を重ねてきた。その中で、長年協力していただいている佐賀市平和展において、遺族の記憶を対談形式で受け、県内全域での活動を目指し、年度当初より研修を重ねてきた。空襲 こうした取組が報道各社に注目され、地元新聞社での継続取材につながっている。

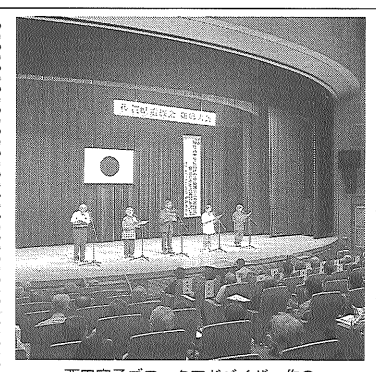
妻サダ子に告ぐる遺書

陸軍少尉 満留 清藤

昭和二十一年一月十三日 満州延吉病院平壤分院にて戦病死 鹿兒島県日置郡田布施村出身 四十三歳 戦局愈々緊迫し皇土決戦の今日皇軍の一員として軍に御奉公する僕は、何時如何なる場合あり得るかを予想し、僕亡き後の指針として左の遺書を汝に残す。

- 一、遺産其他は給て子供の養育費及学資金に充てよ。
二、絶対汝を信頼す。依而子供の養育上起る総ての事項及條件は汝の意思に依り解決せよ。
三、子供は勉めて軍人となすことを希望す。
四、勝己は長男としての本分を盡し、決して母に心配を掛けぬこと。
五、弟妹は皆兄の言ひ付けを守り母に従ひ弟としての本分を盡せ。
六、子供は総て強い立派な人となり国家の為役立つ人となれ。

昭和二十年七月一日 主人 満留清藤 妻 愛しきものへ



西田富子ブロックアドバイザー作の朗読劇を披露＝佐賀県で

九段短歌

遺児われ八十路の坂の幸あり胸に幼日のドラマひ

遺児われ八十路の坂の幸あり胸に幼日のドラマひ
青森県 田中 恭子
ニユーギニアの父の戦死は戦死と聞く平和の今に心の
群馬県 須賀 宏江
しほひては取り出す亡父の軍事郵便類の冷たき夜のし
千葉県 石橋 壽子
戦死せし父の遺言を糧にして懸命に生きし母六十七で
長野県 塩川 篤子
夢に見る戦死の父は若いま何かを言いて朝凜凜
山梨県 菅沼 勝由
暈がかり兄の戦死の公報に阿修羅の顔で立ち尽くした
愛知県 岡田 和幸

この間、語り部による学校への派遣講話と並行して、会員向けの講話実

演講、事業実施に向け大具体的な注意事項の説明等を重ねた。県内事業を牽引するのは、山口貢会長、西田富子副会長兼女性部長と山口英明事務局長、山口会長は早くから語り部の重要性に注目、実施を後押しした。田副会長は講話の匠として、本部ブロックアドバイザーに委嘱されている。長年の活動の中で、遺児、青年部が共に活動できる形を模索し、実母と

の思い出から着想した出征兵士を見送る家族の前夜を描く朗読劇を執筆。兵士を見送る家族、兵士を5人で演ずる朗読劇は、朗読者を変えることで、誰もが参加できる取組みとなった。こうし取組む県遺族会HPや報道へ広報し、行政からの依頼に繋げているのが山口局長、山口会長、西田副会長とのタッグが活動の幅を広げている。

9月7日、県内全域の会員を対象とした研修会では一般者の来場を含め200人が参集。本会水落敬栄会長が語り部の今後の方向性を示し、具体策が担当から説明された。あわせて、講話、朗読劇が上演され、報道紙面で紹介された。こうした機運は県内の国・地方議員にも伝わり、9月の定例県議会では遺域一連五県が参集した。

族の高齢化に考慮した、追悼を求めた自民党議員の質問に対し知事は、戦後80年となる来年、佐賀県主催追悼式の10年前例に要望書を提出し、「戦

女性部・青年部ブロック会議

第1ブロック秋田で開催

「平和の語り部事業」は、体験者の貴重な記憶を地域の歴史と共に伝承するものであり、永続的な実施を目指し、戦争を体験した遺族と戦後生まれの青年部が共に行うこととしている。終戦80周年に更なる普及・拡大を目指し、多くの活動者を育成するため、ブロック毎に女性部・青年部合同研修会の開催を決定。初開催となった第1ブロックのの様子をお伝えする。9月29日、開催地秋田市には、北海道・東北地域一連五県が参集した。

首に架ける遺骨の軽さ横に添え母の泣き小石なららむ
熊本県 高木 容子
父は散り戦時を語りぬし母も逝き吾れは幸寿を疾うに越したり
佐賀県 松尾美津子

長く続いた暮しも漸く和らぎ、本格的な秋の秋を迎えます。新米を始め野菜や多くの果物などが収穫され、私達の日常の食卓に並びます。一方、先の大戦は広大な戦域であったが、補給路の確保は勝敗を決する重要な要素でありました。ガダルカナル島を始め補給戦に敗れた多くの戦域で糧秣に困窮されたのでありました。一粒の米さえ口にするに苦しみ散華された多くの御英霊たちの苦しみは如何ばかりであった事でしょう。ニユーギニアの父の戦死は戦死と聞く。当たり前前に食事が出来る事がどれほど幸せな事なのかを日々思わずにはいられません。(遺書)

しの開催に向け、遺族会とともに検討すると答弁した。県遺族会では昨年10月に要望書を提出し、「戦争の記憶を次世代へ伝承及拡大のために、行政報道双方へのPRにより相乗効果を上げることが求められ、本部は次年度の事業計画に反映する予定。多くの人が涙した。家族の写真を多用する見せ方は「自分史」アンケートの進捗が報告された。女性部の講話者、披露の場が少ないことが指摘され、活動者の発掘・育成のためアンケートの活用として、女性部による本の語り部を自分史として発刊出来ないかとの意見が提案された。

書籍紹介

戦争の記憶を伝える書籍、唐澤昌著「アジア・太平洋戦争の跡を訪ねて」を紹介する。本書は、昭和17年生まれの筆者が、世界各地の旧戦跡を訪ね、制作に20年を費やし、本年6月に刊行した。長野県上田市在住が縁で行っている。で、池内官訓遺族会会長と共に本書刊行報告を市長に行った。A5判、204ページ、2000円。撮影した写真を引き伸ばしたパネルの貸し出しも



戦争に翻弄された家族の人生を語る佐藤青年部長＝9月29日、秋田市で